
所 属 : 国際学部
職・氏名 : 教授 横山 知幸
研究キーワード : 翻訳研究

■研究テーマ

① テーマ：英文和訳における原文と訳文の語順の関係

概要：明治期に広く用いられた「独案内（ひとりあんない）」と呼ばれる独習書を使い、その「各英単語を日本語に訳す順番」を数値データとして用いて、原文と訳文の語順に関わる諸問題、例えば、「語順の一致度」、「訳し上げの割合」、「素通りの程度」などを、数量的に明らかにします。その際に得られる知見を参考にして、英文和訳における語順の問題を考えるための理論的枠組みを支える関連分野からの情報を整理して行きます。

② テーマ：日本語と英語の視点の違いが英文和訳に及ぼす影響

概要：英語が高い視点からものを見下ろしているのに対して、日本語は低い視点からものを見上げていくという傾向があります。これは、日本語と英語の間の翻訳において、最も多くの問題を引き起こす原因の一つでもあります。この視点の違いを中心にして、英文和訳における諸問題を体系的に扱う理論的枠組みを構築してゆく努力をしています。

■研究テーマの応用例

訳読に関わる分野は、実質的にほとんど研究されていません。コミュニケーション重視の言語教育も、既にそれなりの期間行われ、その功罪も徐々に明らかになりつつあります。まだコミュニケーションが足りないというのが主流の考え方でしょうが、方向の修正を模索する動きも出始める頃でしょう。こうした場合に、基礎的事実を提供するという面で、応用できるかもしれません。

■主な著書、発表論文

- 横山知幸(2005)。「英文和訳における語順」『中国地区英語教育学会研究紀要』35, 137-146.
- 横山知幸(2007)。「英文和訳における起点言語文と目標言語文の語順の一致度：ウィルソン第一リーダーの独案内の分析」『中国地区英語教育学会研究紀要』37, 121-130.
- 横山知幸(2008)。「英文和訳において原文の長さが原文と訳文の語順の一致度におよぼす影響：ウィルソン第一リーダーの独案内の分析」『中国地区英語教育学会研究紀要』38, 111-120.
- 横山知幸(2009)。「英文和訳における「訳し上げ」の割合：ウィルソン第一リーダーの独案内の分析」『中国地区英語教育学会研究紀要』39, 99-108.
- 横山知幸(2010)。「英文和訳における「訳し上げ」の割合：ニューナショナル第一リーダーの独案内の分析」『中国地区英語教育学会研究紀要』40, 1-10.
- 横山知幸(2011)。「英文和訳における語順の諸相：明治期の「独案内」二冊の分析」『中国地区英語教育学会研究紀要』41, 67-76.
- 横山知幸(2012)。「英文和訳における原文の語順と訳文の語順との関係」『中国地区英語教育学会研究紀要』42, 41-50.
- 横山知幸(2013)。「英文和訳における原文の語順と訳文の語順の違い」『広島国際研究』19, 123-138.
- 横山知幸(2014)。「英文和訳における語順の違いの測定：ウィルソン第一リーダーの独案内の分析」『広島国際研究』20, 59-73.
- 横山知幸(2015)。「英文和訳におけるSV0型語順からSOV型語順への変換に関わる諸側面：明治期の英語リーダー独習書の分析」『広島国際研究』21, 141-157.
- 横山知幸(2017)。「英文和訳と英日翻訳における言語的「視点」の問題」広島市立大学国際学部

〈際〉研究フォーラム（編）『〈際〉からの探求：つながりへの途』文真堂, 75-98.

■想定される連携先

英語や日本語などの言語教育を行う教育機関